

長沼城跡 発掘調査情報

令和5(2023)年10月7日(土) 現地説明会資料



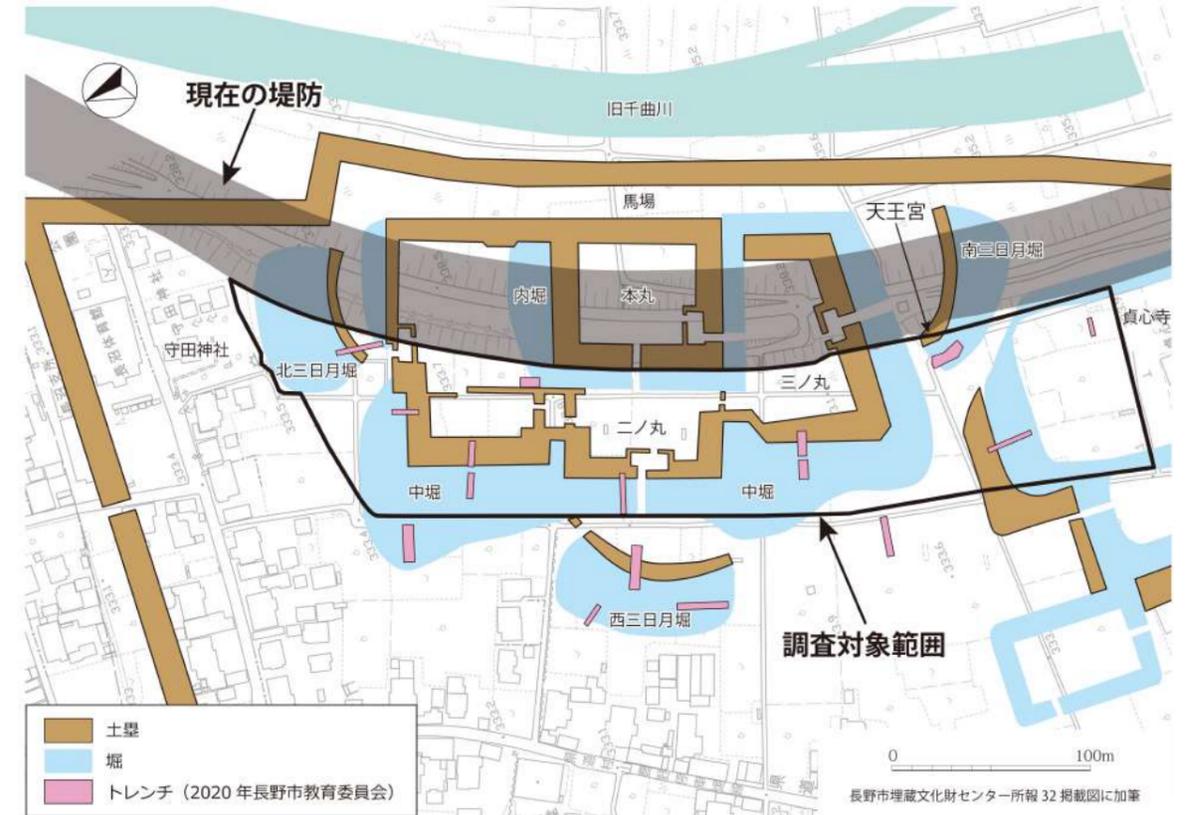
長沼城跡 調査区遠景(南西から撮影)

■ 武田信玄ゆかりの長沼城

長沼城は長野市穂保に所在し、千曲川左岸の自然堤防上に立地しています。永禄4(1561)年の第四次川中島合戦以降、上杉謙信に対する重要拠点として武田信玄によって築かれました。その成立については諸説ありますが、室町時代以降この地を治めていた島津氏の館跡を改修したともいわれています。

武田氏滅亡後は織田、上杉、豊臣、徳川勢が支配し、江戸時代に長沼藩が置かれると、藩主である佐久間氏の居城となりました。しかし4代藩主の時に改易・廃藩となり、長沼城は廃城となります。その後たび重なる洪水や農地利用によって城は埋もれていき、いつしかその姿を知る人はいなくなりました。

そうした中、長沼歴史研究会が残っていた絵図や文書などをもとに長沼城の姿の復元を試み、縄張り想定図を作成しました。これによると長沼城は南北650m、東西500mの大規模な平城であったと想定されています。



長沼城跡 縄張り想定図(長野市埋蔵文化財センター所報32掲載図)

■ 調査成果

長沼城の発掘調査は今年で3年目となり、これまでに多くの遺構や遺物が発見されました。今年度の調査では、土塁や堀のほか、礎石建物や井戸、城の出入口にあたる門などがみついています。堀の際には一定の間隔で打ち込まれた木杭や石積みが残っていました。これらは城の構造を明らかにするための重要な成果といえます。また遺物としては、戦国時代を中心としたかわらけや内耳鍋、唐津焼などの陶磁器、匙や鉄砲玉などの金属製品、砥石や五輪塔などの石製品が出土しました。焼けた土の範囲内から15枚の中国銭が重なるようにして出土しました。備蓄されたものなのか呪術的な意味があるのか、今後検討が必要です。



出土した中国銭

裏面に調査概要図があります



長野県埋蔵文化財センター
〒388-8007 長野市篠ノ井布施高田 963-4
電話：026-293-5926
メール：maibun@naganobunka.or.jp
HP：<https://naganomaibun.or.jp>
調査担当：伊藤・中野・広田・熊木



堀に伴う石積み



堀の落ち込み際に石が積まれていました

礎石建物跡



二の丸に建っていた建物の礎石が残っていました

天王宮(土塁)断面



南三日月堀に伴う土塁と考えられています

天王宮(土塁)

南三日月堀?

北三日月堀

堀に伴う石積み(令和4年検出)

現場事務所

土塁

中堀断面



現地表面から6mの深さで堀の底を確認しました

門の礎石



西からの入り口の門の跡がみつかりました

堀に伴う杭列



一定間隔で木杭が配置されていました

○ 杭列

--- 中堀推定線

長沼城跡調査概要図